

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 人の師たる条件と師の選び方 渡邊 五郎三郎 (福島新樹会代表幹事)

1. 細井平洲 (1728 年～1801 年) は、江戸中期の儒学者で、米沢藩の藩政改革を成し遂げた上杉鷹山の師として知られています。平洲は人の師たる条件を次の五つに記しています。
  - (1) 仁徳の深く高いこと
  - (2) 才能は多方面にわかって知識豊かな人
  - (3) 常に学び努める人
  - (4) 落ち着いて正直であり、人の賢いのをねたまず、人の善い言葉を喜んで聞き、人の善い行いを進んで称揚し、昔と今を問わず、書籍に書いてある話や言葉を素直に深く信じて一つの言葉、一つの行いでも、毎日毎日人に学び聞くことに努め、それを今日のことに活用しようとする心があること
  - (5) 驕りたかぶる心、財宝にこだわる吝しよくの心を持たぬようにし、人のことを思いやり恕す心を育てあげる人
2. また、人の成長は教育次第であり、その教える人を選ぶことが重要であると説き、師の選び方としての次の項目を挙げています。(1) 欠点の少ない人 (心掛けも立派で、真理もよくわきまえ、行いも正しい人) (2) 素志素行が立派な人 (3) 癖の少ない人 (性格の偏った人は不可)、さらに百姓の菜大根を育てる心を持った人であること、強傲で慎みのない人は避けるべきだとも説いています。いくら学問を修めても、決して自分を完全とは思わない。人には寛大で、功を上げて語らず、未熟、未熟と努力を絶やさず前進し続ける姿。その尊い姿を後ろから見ると、これこそが完成した人と映るのではないでしょう。 (参考:「致知」2010 年 1 月号)

## 経営者のための営業学

### 強い企業とは遠心力が働く会社

#### 鈴木 洋 (HOYA 代表執行役員 CEO)

1. 1941 年に光学ガラスメーカーとして創業した HOYA は、当初眼鏡レンズやクリスタルガラスを用いた高級食器などのガラス製品が事業の中心だった。それが 90 年代に入ると、光学技術を生かして半導体関連に強いハイテク素材メーカーに生まれ変わった。そして今、医療へとシフトすることで、「第 3 の創業」に挑もうとしている。「医療・ヘルスケア分野は、先進国の高齢化や新興国の経済成長で確実に需要が見込める。光学技術という当社の強みを最大限に生かすなら、そこを強化するのは自然のなりゆきだ」と、鈴木 CEO は言う。
2. 強い企業とは、「遠心力」が働く会社だと考えている。よく「求心力」こそが重要だとされるが、組織としての弱さがあるからこそ、求心力が必要になるのだと思う。経営陣が事業の状況をきちんと把握し、進むべき方向性や経営戦略を共有できてさえいれば、事業に関する意思決定は現場に任せていい。事業部門に自律を促さないと、複数の異なる事業をマネジメントするのは難しいだろう。 (参考:「日経ビジネス」: 2009 年 10 月 5 日号)

## 経営者のための危機管理

### 食品偽装はなぜ起こるのか

1. 食品偽装はなぜ減らないのか。理由は 1 つに表示法の厳格化が挙げられる。現在、食品表示は JAS 法によって規制されており、加工食品だったら消費 (賞味) 期限や、原材料名、添加物などの記載が義務づけられている。消費者の食に対する安全意識が高まる中、同法は頻繁に改正されており、これまで見逃されていた偽装が明るみに出るようになった。技術的な進歩も偽装を後押しする。たとえば保存技術の発達で、肉などの生ものがある程度古くなくても使えるようになった。
2. 一方で、見破る側の技術も高度化。ひき肉に何の肉が、どの程度使われているのかといった分析などができる食品 DNA 分析はその例の 1 つだ。もっとも最大の理由は企業などのリスク管理の甘さだ。ミートホープのようにだますことを前提に組織ぐるみで偽装する例はまれだ。たいていは自社基準がないか、あっても順守が徹底されていない。その中で、利益を追求するため、「この程度なら」と偽装に走ってしまい、徐々にエスカレートしていく。 (参考:「週刊東洋経済」2009 年 10 月 17 日号)

## 古典に学ぶ

### 長所と短所

「この人間の長所短所の問題については、私は平素から大体次のように考えているのです。それは知識とか技能というような、いわば外面的な事柄については、一般的には短所を補うというよりも、むしろ長所を伸ばす方が、よくはないかと考えるのです。これに反して、自分の性格というような、内面的な問題になりますと、長所を伸ばそうとするよりも、むしろ欠点を矯正することから始めるのが、よくはないかと考えるものです」

(参考: 森 信三「修身教授録抄」: 致知出版社)